

3年生・4年生のみんなへ

『ムキムキだけじゃない ぼくのきんにく』

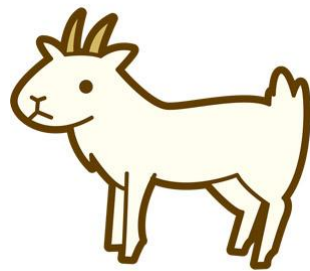
ミヤ ジュンコ／絵
岩間 徹／監修
少年写真新聞社



ほねときんにくがつながっていなかったら、たつことも、すわることもできない。きんにくはとってもだいじなんだ。きんにくのなかみは、ほそいすじみたいなのが、たくさんあつまっている。そしてきんにくは、たいおんをたもつちからもあるんだ。あたまのてっぺんから、あしのさきまで、どこにどんなしゅるいのきんにくがあるか、しらべてみよう。

『グリムのむかしばなし1』

ワンダ・ガアグ／編・絵
松岡 享子／訳
のら書店



なまけもののハインツは、やぎのせわをする仕事^{しごと}がめんどうでたまりませんでした。そこで、ふとっちょのカトリーナとけっこんして、仕事をおしつけることを思いつきました。しかしカトリーナもハインツと同じくらいなまけものだったので、二人はなんとか^{ふたり}楽^{らく}にくらしていく方法はないものか^{かんが}とを考えます。（「なまくらハインツ」より）

2018年

なつのおてがみ

なつやすみは、おまつりや花火大会など^{はなびたいかい}
たのしいことがいっぱい！
おもしろい本^{ほん}が^{としょかん}いっぱいの図書館にも来てね



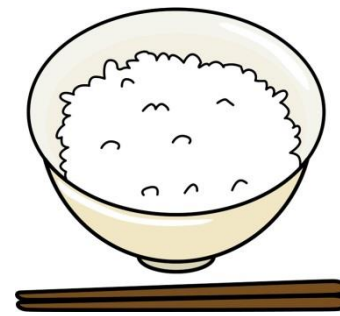
『空を飛ぶ昆虫のひみつ』

星 輝行／写真・文
少年写真新聞社

クワガタ虫^{むし}やカブト虫、チョウ、トンボ、バッタは、はねがあって飛ぶことができます。でも、よく見てみると、はねのかたちはさまざまで、飛び方もいろいろです。とくべつなセンサーシステムで、虫たちが飛ぶようすを、れんぞくした写真^{しゃしん}にさつえいして、それぞれのはねのうごかし方^{かた}をかんさつ。飛ぶためのヒミツをさがっています。

『ごはんはおいしい』

ぱく きよんみ／文
鈴木 理策／写真 福音館書店



「ごはん、いっぱい、たべてねー」という
おばあちゃんに、ごはんのおはなしをきいたよ。
ひとつぶひとつぶのおこめは、ひとつぶひとつぶのいねのみ。ごはんになるまでのおはなしが、まっしろいゆげがとってもおいしそうなたきたてごはん^{しゃしん}の写真といっしょにたのしめるよ。

富田林市立図書館より

『七福神の大阪ツアー』

くまざわ あかね／作
あおき ひろえ／絵
ひさかたチャイルド



七福神^{たの}のお楽しみ、一年に一度の旅行^{いちねん いちど りょこう}。今年は大阪^{ことし}です。旅のガイド、案内スル代^{たび あんない よ}がご案内。大阪^{ひと}の人ならだれもが知っているあの場所^しこの場所へのコテコテツアー。七福神は「うわあー」「きゃー」と大さわぎ。ちょっとワガママな七福神にハラハラドキドキさせられます。でも神様^{かみさま}ですから、みんなを^{しあわ}幸せにすることもわすれません。わらいあり、ボケとツッコミありのおもしろいお話し^{はなし}です。

『シランカッタの町で』

さえぐさ ひろこ／作
にしむら あつこ／絵
フレーベル館



クラスで「よわっち」とよばれている小学^{しょうがく}3年生^{ねんせい}のかずきは、ふしぎなおばあさんの万華鏡^{まんげきょう}にみちびかれ、「シランカッタの町」でキズカという女^{おんな}の子^こと出会います。あなたもかずきといっしょにぼうけんしませんか。くじけそうなときや、つらいとき、力^{ちから}をかしてくれる「自分のなかのもうひとりの自分」にきづいてね。

くち せ かい
『口ひげが世界をすくう?!』



ヨーヨーは、おじいちゃんが心配。おばあちゃんが天国に旅立ってから新聞ばかり見ているのです。ある日、おじいちゃんは急で出かけていきました。子犬でもかうのかな? いいえ、じつは、ヒゲの世界大会に出るんですって。りっぱなヒゲを育てるために、道具を買いに行っていたのです。(ヒゲの世界大会は「世界ヒゲ選手権」という名前で実在しているよ。)

『エルマーとブルーベリーパイ』

ジェーン・セアー／作
シーモア・フレイシュマン／絵
おびか ゆうこ／訳 ほるぷ出版

ある家にエルマーという妖精が住んでいました。妖精は人には見えません。ある日、家の人たちがブルーベリーパイをやきました。「なんていいにおいなんだろう!」エルマーはかくれてパイをたくさん食べました。次の日、またパイを食べようとしましたが、どこにも見当りません。もういちどブルーベリーパイをたべたいエルマーは家のお手伝いをすることにしました。

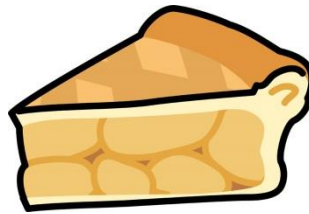
くむがんさん
『金剛山のトラ』

クオン ジョンセン／再話
チョン スンガク／絵
かみや にじ／訳
福音館書店



むかし、ユボギというなまえの男の子がいました。7さいになったユボギは、父さんがトラ退治のため金剛山に行ったきり帰らないと知り、父さんのかたきをとると心に決めます。その日から毎日弓を引き、体をきたえ、10年後りっぱな若者になったユボギは、金剛山にトラ退治に出かけます。ユボギは父さんのかたきをうつことができるのでしょうか?

ザラ・ミヒャエラ・オルロフスキー／作
ミヒャエル・ローハー／絵
若松 宣子／訳 岩波書店



してつぜんせん ち ず
『JR私鉄全線 地図でよくわかる 鉄道大百科』

JTBパブリッシング

夏休みに電車で旅行に行く子も多いかな。鉄道好きもそうでない子もぜひこの本を読んでみてね。知っているようで知らない鉄道のしくみから、鉄道の歴史までくわしく書いているよ。また、写真もいっぱいあって、全路線図がのっているの、旅行の計画にも役立つよ。最後に時刻表の使い方もついているので、この1冊で鉄道博士になれるかも。



なに こわ きけんせいぶつ し
『何が怖い? どこが危ない? 危険生物を知ろう! 2』

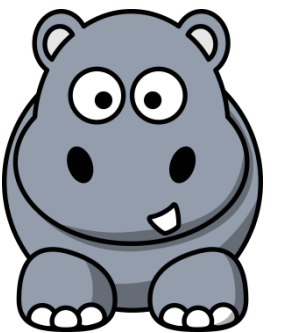
みちか にほん
身近にひそむ! 日本の危険生物』

小宮 輝之／監修 教育画劇

山や海に出かけるとき、危険な生物がいなくていいかなにか気になりますか? ハチやクマ、クラグなど、あぶないと有名な生物が、じっさいはどういう生き物なのか、この本でしらべることができます。かわいいイメージの動物もいて、こわいけど、ちょっとわくわくするかも? 正しいちしきを身につけて、夏休みを楽しみましょう。

てん き
『天気よほうはことわざで』

山下 明生／作
小山 友子／絵
あかね書房



正しいカバの生き方について考えることを、カバたちは「テツガクする」といいます。カバのテツガクから、たくさんのカバのことわざが生まれました。「待てばカバの日和あり」、「ワニの目にも涙」とはどういう意味なのか、カバの男の子、カバテツと一緒に学んでみましょう。私たちのことわざでは何というのかも教えてくれます。